

当院でおこなわれている生理検査のご案内

生理検査とは直接患者さんに接して行う検査の総称です。
生理検査には、心電図検査、超音波検査、肺機能検査、
脳波検査などがあり、臨床検査技師が担当しています。

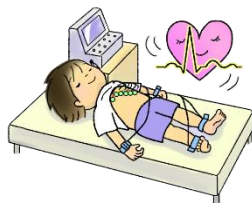
以下に当院で行われるおもな検査項目についてご案内いたします。
なお、心電図、四肢血圧脈波をのぞく検査は原則予約制となっております。
気になることがございましたら主治医にご相談下さい。

各種検査のご案内

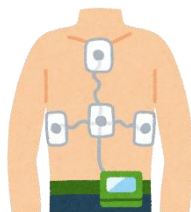
(検査名の後ろにある時間はおよその所要時間となります。)

心電図 (約5分)

心臓が動いたときに発生する電気信号を
波形として記録する検査です。
不整脈、左室肥大、虚血性心疾患などが
診断できます



ホルター心電図 (取り付け 約 15 分、取り外し 約 5 分)
日常生活をしながら心電図を 24 時間記録する検査です。
通常的心電図検査ではわからない不整脈の出現頻度や
狭心症の有無などを調べることが出来ます。
動悸や胸痛、失神発作などの症状があるときに
有用です。
この検査は機器の着脱のため 2 日続けて
来院していただく必要があります。



負荷心電図 (約 20 分)

運動により動悸や息切れが出る状況を再現して心電図変化を
調べる検査です。

階段を決められた時間一定のリズムで昇降し、その前後に心電図を
記録するマスター2 階段試験などを実施しています。

運動により誘発される狭心症や不整脈の診断に有用です。

四肢血圧脈波 (約 15 分)

両手両足の血圧、心音を記録し動脈の硬さや
詰まり具合などを調べる検査です。

動脈硬化の診断や生活習慣病の管理などに有用です



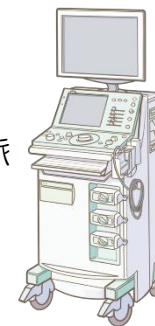
超音波 (エコー) 検査

超音波とは人の耳には聞こえない高い周波数の音です。
体にあてた機械から超音波を発射し体内の組織にぶつかって
跳ね返ってきた超音波を画像として映し出す検査です。

腹部エコー (約 30 分)

腹部の臓器を調べます。

対象臓器：胆嚢、胆管系、肝臓、膵臓、脾臓、腎臓、
膀胱、前立腺、子宮、卵巣、胃、腸、腹部大動脈
(医師が必要に応じて検査項目を指定します)
脂肪肝、胆石、腫瘍の有無などがわかります。



泌尿器科エコー (約 30 分)

腎臓、膀胱、前立腺を調べます。

膀胱壁や内部を観察するために尿を貯めておく必要があります。
腎結石、前立腺肥大、腫瘍の有無などがわかります

心エコー（約 30 分）

心臓の大きさ、動き、弁の状態などを観察します。
心肥大、弁膜症、心筋梗塞、先天性心疾患などがわかります。
心電図異常（左室肥大など）、胸痛などがある場合に実施します。

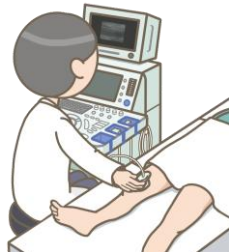


下肢動脈エコー（約 60 分）

足の付け根から足首にかけての動脈を調べる検査です。
動脈硬化や動脈の狭窄・閉塞の有無などを調べます。
足のしびれや痛み、チアノーゼがある場合に実施します。

下肢静脈エコー（約 30 分）

足の付け根から足首にかけての静脈を調べる検査です。血栓の有無や静脈瘤、静脈弁機能不全などを調べます。
足の痛み、むくみ、急激な腫れが出現した場合に実施します。



上肢動脈エコー（約 30 分）

鎖骨～手首にかけて走行する腕の動脈の状態を調べる検査です。
上腕血圧に左右差がある場合や上肢にしびれや冷感などがある場合に実施します。



頸動脈エコー（30～60 分）

首の左右にある頸動脈の様子を調べます。
動脈硬化の評価や血栓の有無について調べます。
高血圧、高脂血症、糖尿病の患者さんたちに有用です。

甲状腺エコー（約 30 分）

甲状腺の大きさ、びまん性病変（橋本病やバセドウ病など）や結節性病変の有無や評価をします。

頸部の腫れ、かすれ声、食べ物がつかえる感じなどの症状がある場合や血液検査で甲状腺機能の項目（FT₃、FT₄、TSH など）に異常がある場合に実施します。

乳腺エコー（約 30 分）

胸に超音波を当て腫瘤性病変やびまん性病変、乳管内病変の有無や性状を評価します。

その他のエコー（約 30 分）

皮下に出来た腫瘤などの性状を調べる検査です。
対象：耳下腺、顎下腺、舌下腺、頸部リンパ節、皮下腫瘤など

脳波（約 60 分）

頭皮上と耳たぶに約 20 個の電極をつけ脳が活動するときに出る電気信号を記録して大脳機能を調べる検査です。
てんかんの診断や治療効果、脳神経の評価に有用です。

神経伝導速度（30～40 分）

手足の神経の上から電気刺激を与えて伝わる速さをみる検査です。
糖尿病や手根管症候群などの神経障害の診断に有用です。
手足にしびれや脱力がある場合に実施します。

呼吸機能検査（15～20 分）

機械に接続された筒をくわえた状態で大きく息を吸ったり吐いたりする検査です。
気管支喘息や肺気腫、慢性気管支炎などの診断や重症度の評価に有用です

